

皆さんに「キノコの季節は？」と聞くと、多くの人は秋と答えます。

確かに「秋」で正解ですが、キノコの季節が始まるのは梅雨～初夏からになります。出てくるキノコを見るとその季節を感じるようになります。そこで、いくつかの梅雨～初夏に顔を出すキノコを紹介します。梅雨のしっとりとした森をゆっくり歩いて観察すると、雨の山も少しは楽しくなるかもしれません。

ただ、あきる野で見られるキノコのなかで食用になるものはほとんどありません。キノコの色や形を楽しんでください。

この時期の奥山での散策は、<sup>かが</sup>屈んでキノコや山野草を見ていると周りが見えず、人がクマを発見できない、クマが人を発見できないことで、ツキノワグマとの遭遇の危険が高まります。実際に東北ではネマガリタケを取りに行き、クマと遭遇して事故に遭われることが度々報告されています。

豊かな自然に分け入る時は、十分に気を付けてください。



### ←シャグマアミガサタケ

針葉樹林内に発生する、とても変わった形のキノコです。不規則な形で、脳みそ状のヒダが特徴です。

死亡例も報告されている猛毒キノコです。しかし、ヨーロッパの一部(フィンランドなど)では毒抜きをしたものが高級食材として、ベシヤメルソースの材料などに利用されていると言われており、缶詰なども売られているそうです。



### ←ツノマタケ

枯れた木に発生する黄金色のキノコで、ニョロニョロとしたすりこ木状の形をしています。

木材腐朽菌と言われるキノコの仲間で、これらが枯れ木や落ち枝といった有機物を分解して、森をきれいにし、土を作ってくれます。

このキノコは無毒ですが不食キノコとして扱われています。多分、とても不味いキノコなのでしょう。しかし、一部、精進料理の材料として扱われることがあるようです。



### ←オオホウライタケ

森の落ち葉がたまっている所に生えるキノコで、中心から外への筋が特徴です。春から秋まで長期にわたって目にすることが出来ます。

このキノコは、林床にたまった落葉を分解して森の土を作ってくれるキノコです。落ち葉をめくると、白い菌糸が溜まった落葉に広がっています。落ち葉を分解して、腐葉土を作り、さらにミミズなどにそしゃくされ、微生物やバクテリアの手を借りて豊かな森の土が出来上がります。

## 森と暮らすキノコ

キノコには、樹木と共生関係を結び木を育てるキノコ(菌根菌類)と、森の枯れ木などを分解して森の土を作るキノコ(腐朽菌類)があります。

共生関係を結ぶキノコとして有名な所では、マツタケがあります。マツタケは生きているマツと共生関係を結んでいます。

枯れ木などを分解するキノコとしては、シイタケがあります。枯れたコナラの枝に植菌されたシイタケは、コナラを分解しながらキノコを発生させます。





## ←アラゲキクラゲ

冬から見れますが、初夏には見られなくなります。

枯れ木に発生して分解してくれます。

ここで紹介するキノコでは、唯一食べることが出来るキノコです。ただ、生えているキクラゲは、少々グロテスクに見えることもあり、食欲をそそる形には見えません。

また、エゴノキタケなど、似ているものもあり、安易に食べないようにお願いします。



## ←ドクベニタケ

梅雨の終わってから8月頃まで見ることが出来ます。

カシ類などの常緑樹の近くに生える、リンゴのような赤いカサと白い柄がきれいなキノコです。

このキノコを見ると、そろそろ梅雨が明けると感じますが、ここ数年は空梅雨気味で、あまり見れなくなりました。

カシ類の樹木と共生関係(菌根菌)で、樹木の生長を助けているキノコです。ベニタケは近縁種が多く、顕微鏡で胞子の形を見ないと同定は難しいキノコです。大雑把にこのようなキノコはドクベニタケと考えて問題ないです。



## ←ケガワタケ

春～夏に見られ、梅雨を感じさせる中型キノコです。成熟すると傘の表面に細かい亀裂が見られます。広葉樹の枯れ木に生えます。

南方系のキノコで、関東以北ではあまり見られないキノコとされていますが、近年の地球温暖化のせいか、時折目にするキノコです。

## ↓イボタケ3兄弟

梅雨の終わってから8月頃まで見られる小さなキノコです。湿った森を見回すと、ぽつりぽつり目に入ります。

この3種類のなかではキイボカサタケが比較的大きく、次いでシロイボカサタケ、小さめなのがアカイボカサタケとなります。

もう1種類、ソライロタケという青色の仲間がありますが、非常に珍しく、まだ出会っていないキノコの1つです。

### キイボカサタケ



### アカイボカサタケ



### シロイボカサタケ

